



YOUR CIRCULAR STORY

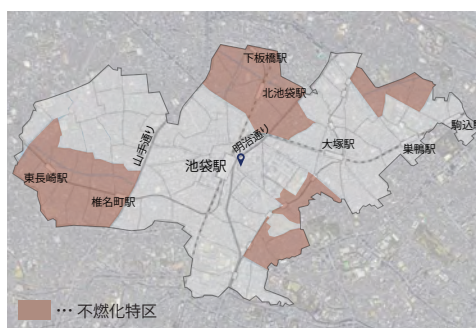
廃材を利用した街の循環システムを担う文化発信拠点



01. 背景 - 木造密集地域と若者の文化の街

【木造密集地域】

東京都は災害危険度の高い木造密集地域を「燃え広がる」にすることで、不燃化特区制度による建築物の不燃化を促進している。その中でも豊島区は木造密集地域が多く存在し、ボヤや空き家問題などの課題を抱えている。



【文化の街】

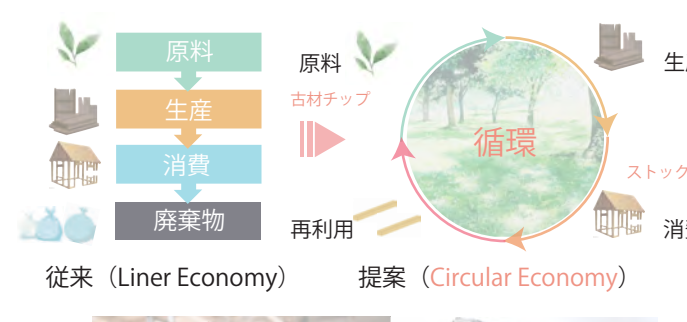
アトリエやトキワ住など絵や彫刻、漫画などを勉強する若者向けの借家群が多く存在し、池袋のアート・カルチャーの源流となっていた。しかし現在は安価な借家が減少し若者の居場所が減少している。文化を担い、発信していく場が必要とされる。



02. コンセプト - 木造密集地域の廃材を用いたサーキュラーエコノミーを実現する建築

【循環利用を前提とした建築】

サーキュラーエコノミー（循環型経済）とは、従来の作って捨てるというリニア（直線）型経済システムのなかで活用されることなく「廃棄」されていた製品や原材料などを新たな「資源」と捉え、廃棄物を出すことなく資源を循環させる経済の仕組みのことを指す。この概念に基づき、豊島区の本造密集地域をストックと捉え、本計画の中心素材として再利用する循環型の建築を提案する。



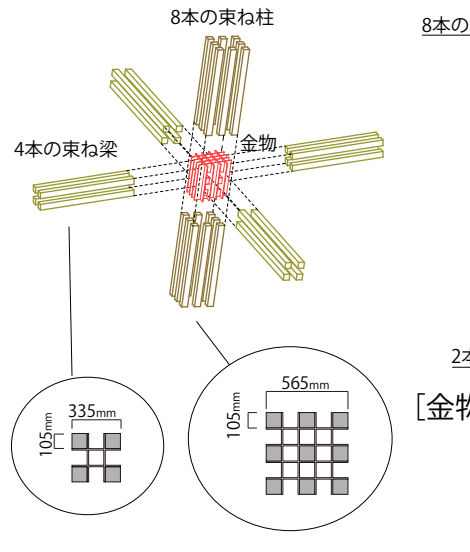
【循環から始まる新たなカルチャー】

本提案では躯体や内部空間が更新されることが前提となる建築を提案する。この建築は豊島区内のストックから構成され、更新される。建物内には様々な個性を持つ美術学校生や音大生、建築家の卵たちが住み更新の担い手となる。更に、この建築は未来の文化形成・発信拠点となる。都市における場所を再獲得したストック達は建物内や街に姿を現し始め、人々に「誰もが主役になれる」ことを再発見させていく。

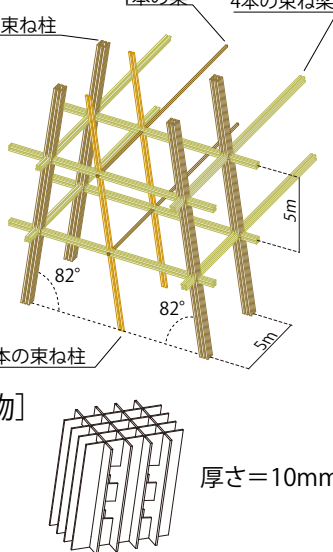


03. 構造 - 住宅廃材を利用した束ね材

【接合方法】



【組み方】



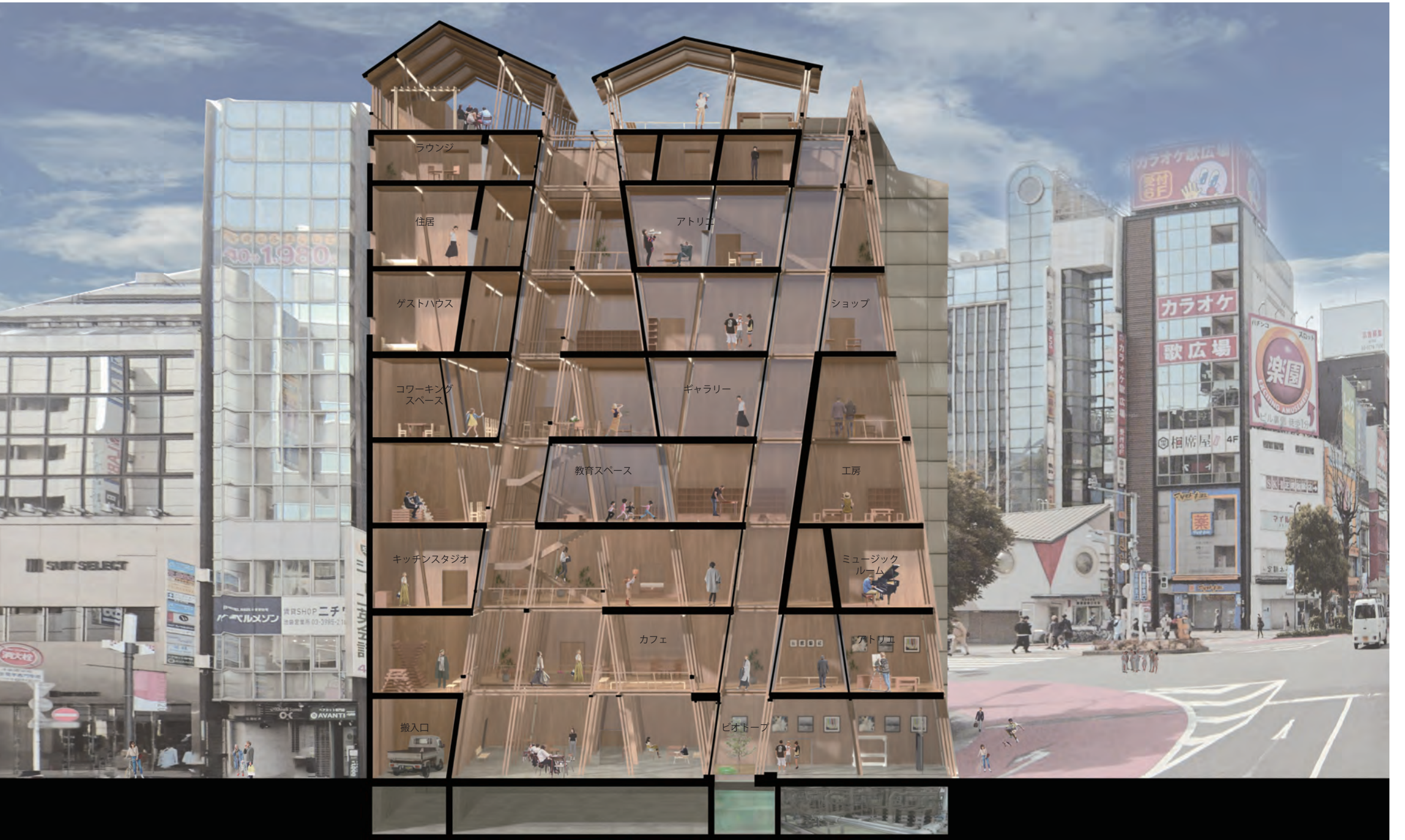
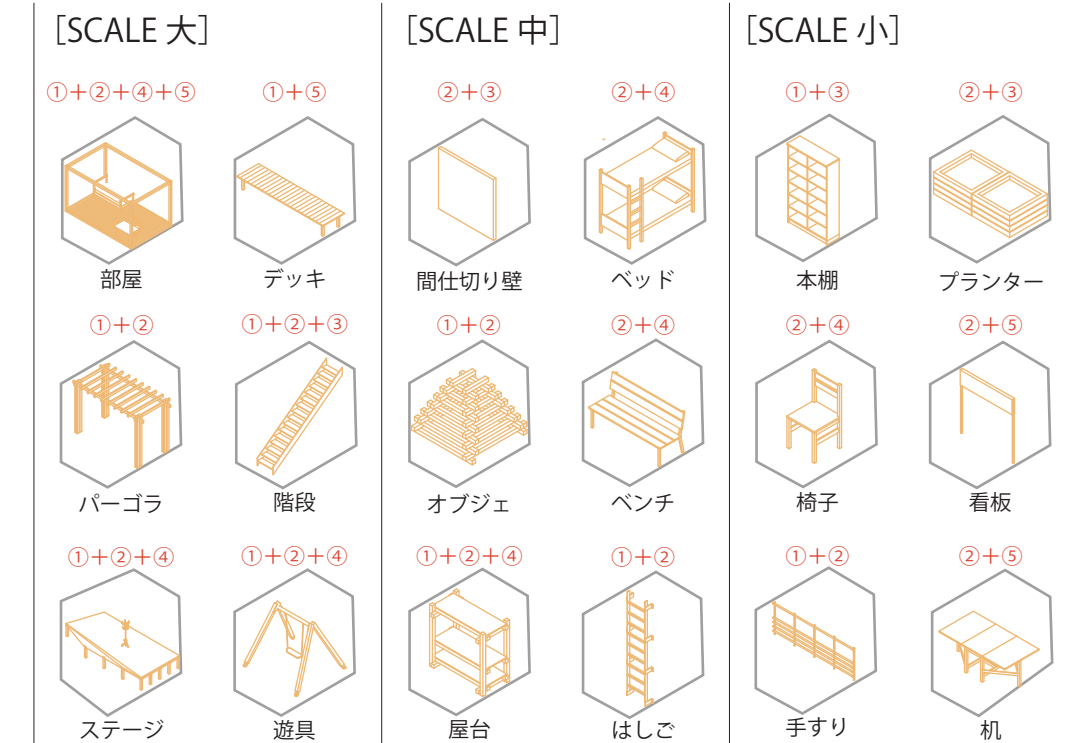
住宅から出る105角の廃材を金物を使って束ねる。束ねた柱の隙間に束ねた梁を挿入することで強度を増し、高層木造建築を実現させる。金物は束ね材の内部にあり表面に現れず、美観を保つ。

04. 廃材の活用 - 規格によって現れるオブジェクト

【ストックの規格を活かした活用法】

在来軸組部材 ①	材長	断面寸法
管柱 C・通し柱 C	2.0-5.0	105×105, 120×120
梁・桁	3.0-5.0	135×135, 105×105
間柱・母屋	1.8-4.0	105×120, 120×120
間柱 C・筋かい C		90×90, 30×30
二階根太・垂木		30×105, 30×120
		45×45, 45×60
		45×75, 45×90, 45×105
持組壁工法部材 ②	材長	断面寸法
壁 206・210		38×64
壁 204・208・212・404		38×64
壁 404		89×89
小屋 206・210		38×64
小屋 204・208・212・404		38×64
幅広部材	材長	断面寸法
壁 ③		住戸の有価値
スラブ ④		
屋根 ⑤		

内部空間にはストックの規格の組み合わせによって様々なオブジェクトが生まれる。大きいオブジェクトはまたさらに小さなオブジェクトへ作り変えられる。



05. 更新性 - 時間スパンで更新される建築

【家具の更新】

現在 (耐久試験) 家具やストリートファニチャーなどの小規模なものが短時間で更新される。

【部屋のレイアウトの更新】

ミッドスパンでは、部屋のレイアウトや設備更新、建築内の間仕切りを更新する。

【躯体の更新】

躯体の更新時期とともに、階高や建築内の空間構成を要望や用途に合わせて変化する。

廃材は最初に耐久試験を行い、耐用年数を推定することで、用途や使用スパンを決定する。耐用年数が短いものから順に、家具、間仕切り壁、幅広部材に使用されていく。建築の持つ更新性を活かすことで、要望に合わせて階高を変化させることや時間経過の中で必要な用途を加えることが可能となっている。

【更新】

家具やストリートファニチャーなどの小規模なものが短時間で更新される。

【部屋のレイアウトの更新】

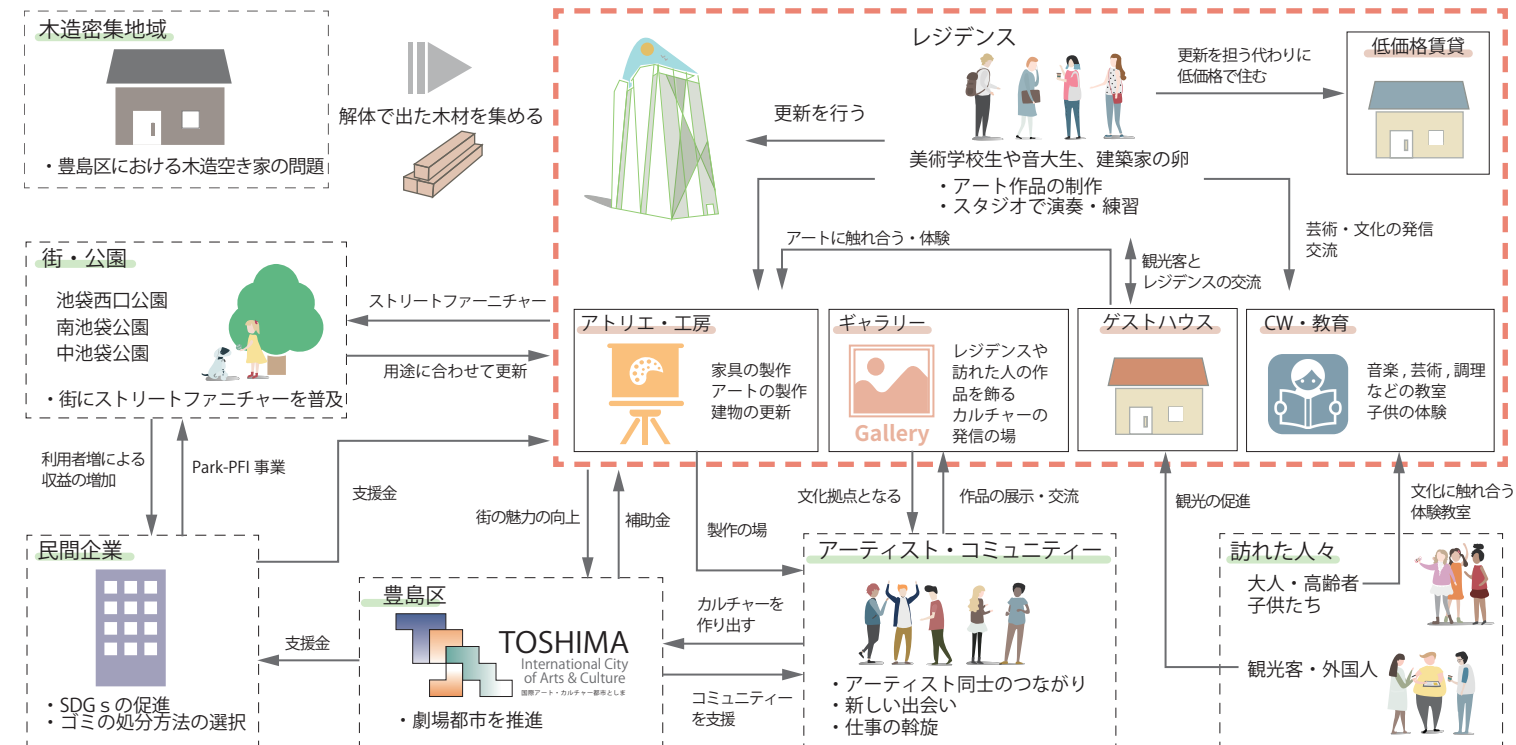
ミッドスパンでは、部屋のレイアウトや設備更新、建築内の間仕切りを更新する。

【躯体の更新】

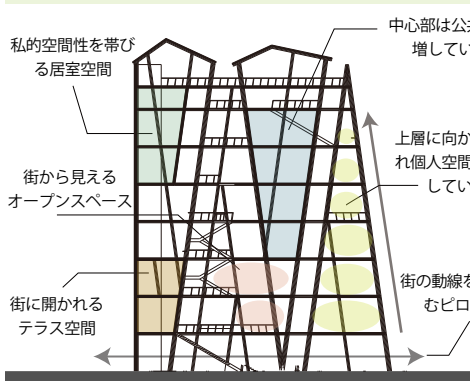
躯体の更新時期とともに、階高や建築内の空間構成を要望や用途に合わせて変化する。

廃材は最初に耐久試験を行い、耐用年数を推定することで、用途や使用スパンを決定する。耐用年数が短いものから順に、家具、間仕切り壁、幅広部材に使用されていく。建築の持つ更新性を活かすことで、要望に合わせて階高を変化させることや時間経過の中で必要な用途を加えることが可能となっている。

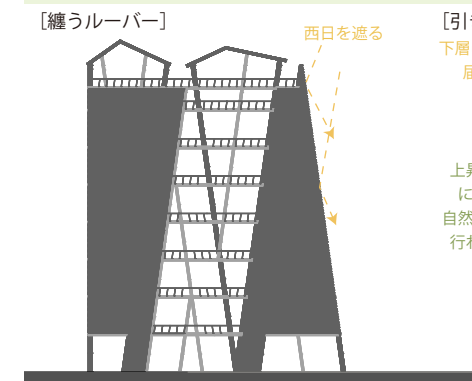
06. スキーム - レジデンスを中心とした街とのつながり・芸術文化の発信拠点



07. 空間 - 斜めの壁が生む多様な居場所



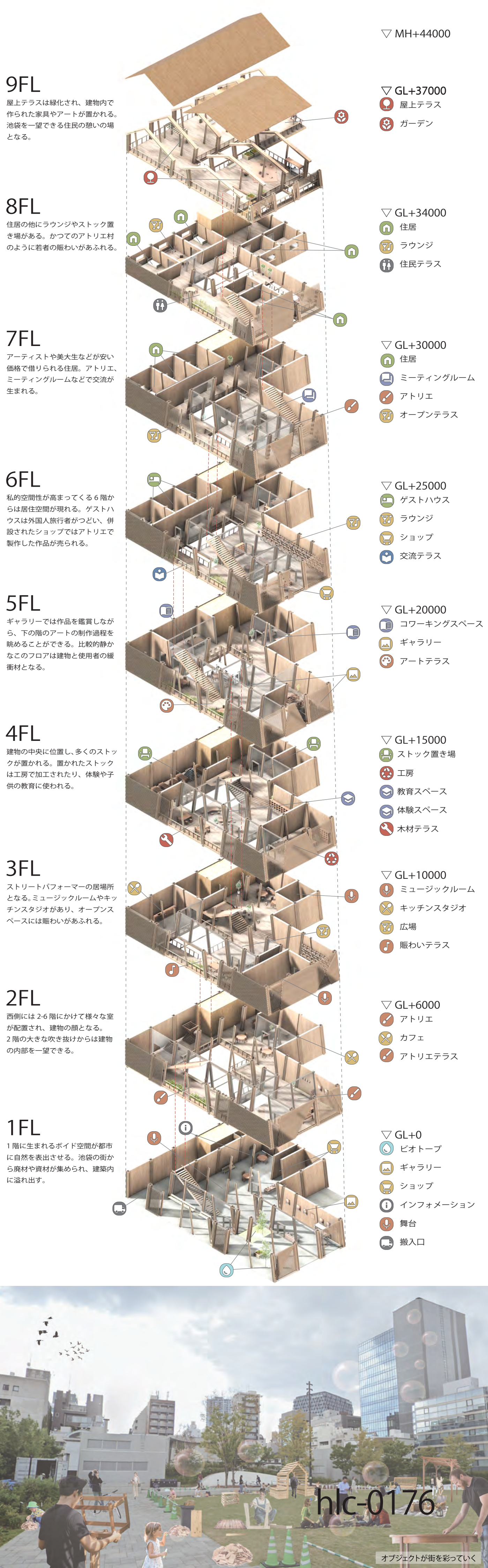
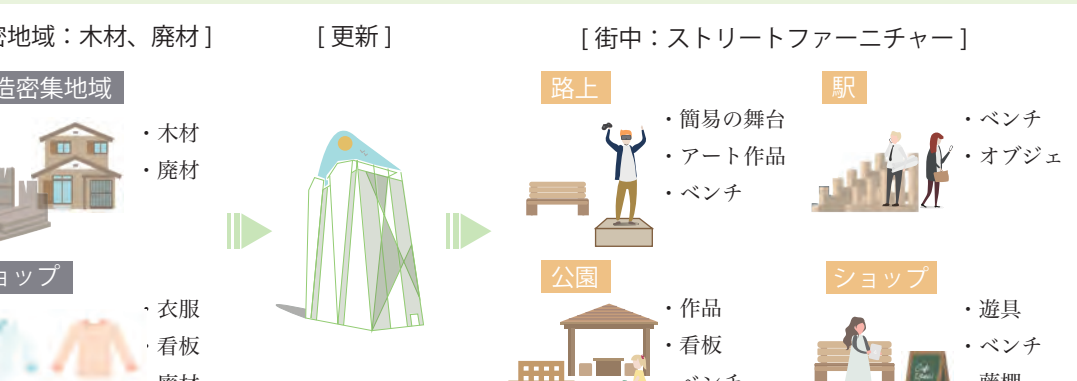
08. 環境装置 - 自然を可視化する



09. 街への拡がり - 建物内で新たなものに更新され、街中で使われる



【街中：ストリートファニチャー】



▽ MH+44000

▽ GL+37000

● 屋上テラス

● ガーデン

▽ GL+34000

● 住居

● ラウンジ

● 住民テラス

▽ GL+30000

● 住居

● ミーティングルーム

● アトリエ

● オープンテラス

▽ GL+25000

● ゲストハウス

● ラウンジ

● ショップ

● 交流テラス

▽ GL+20000

● コワーキングスペース

● ギャラリー

● アートテラス

▽ GL+15000

● ストック置き場

● 工房

● 教育スペース

● 体験スペース

● 木材テラス

▽ GL+10000

● ミュージックルーム

● キッチンスタジオ

● 広場

● 賑わいテラス

▽ GL+6000

● アトリエ

● カフェ

● アトリエテラス

▽ GL+0

● ビオトープ

● ギャラリー

● ショップ

● インフォメーション

● 舞台

● 搬入口

hlc-0176

オブジェクトが街を彩っていく